

## センター試験当日までに確認しておきたいこと

### 2016年度センター試験の主な注意点

2016年度センター試験は、全教科・科目で新課程に対応した出題となる。特に理科は、科目構成や実施方法が旧課程とは異なるため、注意が必要だ。

科目構成については、物理、化学、生物、地学4領域からそれぞれ基礎を付した科目(以下、基礎科目)と、基礎を付さない科目(以下、専門科目)が計8科目出題され、基礎科目が理科①、専門科目が理科②と別々の時間帯で実施される。試験時間と配点は、理科①が60分で2科目(計100点)、理科②が1科目選択の場合は60分(100点)、2科目選択の場合は130分(うち解答時間120分、計200点)となる。受験生は事前に申請したA～Dの4パターンのいずれかを受験し、試験当日に科目選択方法を変更することはできない。

#### 新課程センター試験 理科出題科目と選択方法

グループ	出題科目	配点(試験時間)	科目選択方法
理科①	物理基礎 化学基礎 生物基礎 地学基礎	2科目100点 (60分)	以下4パターンから選択 A: 理科①から2科目 B: 理科②から1科目 C: 理科①から2科目及び 理科②から1科目 D: 理科②から2科目
理科②	物理 化学 生物 地学	1科目100点 (60分) 2科目200点 (130分)	

\* 大学入試センター資料。

\* 理科①は1科目のみの受験は不可。

また、2016年度センター試験では、新課程に対応した科目についての旧課程履修者への経過措置は行われない。ただし、2016年度センター試験に限り、旧課程履修者のための出題科目として「工業数理基礎」が出題される。現役生が誤って解いてしまった場合は、0点となるため、注意が必要だ。

なお、2015年度センター試験に引き続き、「地理歴史、公民」及び「理科②」の受験科目数に応じて、試験室が別々に設定される。同時に、複数の試験場を「グループ化」し、1つの仮想試験場と考え、受験生を割り当てる方式も継続的に採用される。同一の高校で、受験パターンによって試験場が別々になる可能性もあるため、注意したい。

その他、得点調整の対象教科・科目は以下となる。

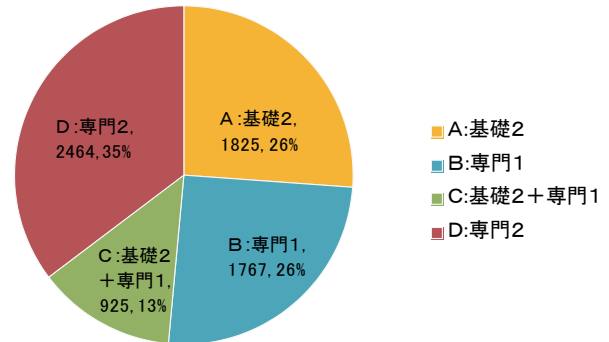
- (1) 地理歴史の「世界史B」、「日本史B」、「地理B」の間
- (2) 公民の「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」の間
- (3) 理科②の「物理」、「化学」、「生物」、「地学」の間

ただし、受験者数が1万人未満の科目は得点調整の対象外となる。

### 各大学のセンター試験理科の受験パターン指定状況

国公立大のセンター試験理科の受験パターン指定状況は以下の通りである。理科の受験パターンの指定は、文系学部と理系学部とで概ね傾向が分かれた。

#### センター試験理科受験パターン別 出願可能な募集単位



\* 2015年8月4日時点。弊社調べ。

\* 国公立大の全日程。

\* 複数のパターンを指定する募集単位は重複して数えた。

文系学部はほぼすべてが基礎2科目を指定した。ただし、専門1科目、もしくは専門2科目で代替することも可能としている。唯一、例外は神戸大・発達科学(人間環境)のみで、前期の文科系方式と後期の小論文方式では専門科目での代替は認められない。なお、基礎2科目と専門1科目を両方受験した場合、ほとんどの大学は高得点の科目を採用するが、埼玉大、名古屋大、札幌市立大、島根県立大の一部学部は基礎科目を優先するといったように、例外も一部あるため、志望者は事前に理解しておきたい。

一方、理系は多くが専門2科目のみを指定しているが、一部の募集単位で、基礎2科目+専門1科目の受験を認めているケースもある。また、基礎科目と専門科目とで同一名称科目を組み合わせた受験を認めるかどうかは、各大学で判断が分かれているため、あらかじめ確認しておきたい。

その他のセンター試験情報は、

『データネットホームページ』に掲載しています。

データネット 2016

検索